

2024年度 北見縣高等学校シラバス

〔教科〕 【科目】	〔国語〕〔古典探究〕	2年	2単位	教科書	高等学校 古典探究 数研出版	副教材等	体系古典文法	履修対象・ 使用教室 等	2G選択/HR
教科 ・ 科目 の 目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								
評価 の 観点	知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
評価 方法	*単元などの授業内容のまとまりごとに「評価の観点」に基づいた観点別評価を行い、〔A:「十分満足できる」状況 B:「概ね満足できる」状況 C:「努力を要する」状況〕とする。 *単元などの観点別評価に基づいて、学習全体の総合的な評価を行ったものを「5段階の評定」とする。								
評価 資料 ・ 評価 比重 (100点換算)	評価資料等	予定回数・内容等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	単元テスト	14回			100	100	0		
	課題提出	適宜			0	0	100		
		〔観点別配分%〕			〔3観点の比重を%で示しています〕				
月進行 (計画)	【単元名】 学習項目名	配当 時間 (計画)	学習内容・目標 (到達点) など			主な評価資料		評価の重み付け(◎○)	
4 5	説話/大江山 (十訓抄) 説話/兼盛と忠見 (沙石集)	10	・「丹後へ遣はしける人は参りたりや」とは、どのようなことを言おうとしたかの説明する。 ・「大江山……」の歌で、小式部内侍が伝えようとしたことを説明する。 ・「返歌にも及ばず、袖を引き放ちて、逃げられけりとは、誰がなぜのようにしたかの説明する。 ・「大江山」はどのような教訓を示すために収録されていると考えられるか話し合う。 ・『沙石集』の編者が、忠見のあり方をどのように評価しているか説明する。 ・忠見のあり方をどのように評価するか、話し合う。			単元テスト	◎	○	
						ノート・レポート提出		○	◎
						授業態度			◎
6 7	説話/用枝の筆策 (古今著聞集) 歌物語/初冠 (伊勢物語)	12	・明尊が「今夜の纏は他人に及ぶべからず、用枝一人にあるべし」と言った理由を説明する。 ・編者が、この話をおもしろく読ませるため、話の展開にどのような工夫をしているか話し合う。 ・それぞれの歌について修辭法を確認する。 ・「男」が着ていた「狩衣の裾」を切り取って歌を書いたのはなぜか、考える。 ・「かくちはやきみやび」とは「男」のどのような言動を指して言ったものか、説明する。 ・「春日野の……」の歌と「みちの……」の歌の類似点・相違点を考える。			単元テスト	◎	○	
						ノート・レポート提出		○	◎
						授業態度			◎
8 9	歌物語/通ひ路の関守 (伊勢物語) 歌物語/渚の院 (伊勢物語)	10	・「人知れぬ……」の歌に込められた男の気持ちを説明する。 ・「あるじ許してけりとは何を、なぜ許したのか、説明する。 ・第一段落と第二段落はどのような関係にあるか、考える。 ・物語中の歌について、誰がどこで詠んだ歌であるかを確認し、主題を考える。 ・三組の歌がどのようにやりとりされているのか、それぞれの関係を考える。 ・惟高親王と馬の頭、紀有常の交流についてどのように思うか、話し合う。			単元テスト	◎	○	
						ノート・レポート提出		○	◎
						授業態度			◎
10 11	歌物語/をばすて山 (大和物語) 歌物語/鳥島の院 (大和物語) 随筆(-)/すさまじきもの (枕草子)	14	・「男」が「をば」を捨てて至った経過を整理する。 ・「をば」を捨てた後再び迎えに行くまでの「男」の心情はどのようなものだったか、話し合う。 ・「あさみどり……」の歌について現代語訳し、この歌が「鳥島」という題の歌であると言えるのはどうしてか、説明する。 ・「二間はかり積みてぞおきたりける」とは、何がどのような様子であるというのか、説明する。 ・「ゆるぎありきたるも、いとをかし。すさまじけり」とはどういうことか、説明する。			単元テスト	◎	○	
						ノート・レポート提出		○	◎
						授業態度			◎
12 1	随筆(-)/御前にて人々とも (枕草子) 随筆(-)/大納言殿参り給ひて (枕草子)	10	・「うたて、何しにさ申しつらむ」とは、誰のどのような気持ちを表しているか、説明する。 ・作者以外の女房たちが、その時々状況に応じてどのような行動をとったか、順にまとめる。 ・「ただ人のねぶたかりつる目もいと大きになりぬ」とあるが、どういことが、説明する。			単元テスト	◎	○	
						ノート・レポート提出		○	◎
						授業態度			◎
2 3	日記文学(-)/東路の道の果て (更級日記) 日記文学(-)/物語 (更級日記) 物語/光源氏誕生 (源氏物語)	14	・「人知れずうち泣かれぬ」という作者の気持ちを説明する。 ・作者が『源氏物語』を読むことに没頭していることがわかる表現を抜き出し、そのときの気持ちを考える。 ・『源氏物語』に登場する「夕顔」や「浮舟」がどのような女性なのか調べ、作者がこの二人を取り上げた理由を考える。 ・帝が「桐壺の更衣」を寵愛することに対し、まわりの人々はどう思ったか、説明する。			単元テスト	◎	○	
						ノート・レポート提出		○	◎
						授業態度			◎
学習の アドバイス	基本文法を徹底して覚えてしましましょう。そこから古文読解が始まります。								